

授業科目名 (英文名)	臨床薬理学 (Clinical Pharmacology)	科目区分 対象学生	
単位数	2.0	開講年次・ 学期	2年次・後期
担当教員	福島 昭二 岩川 精吾 岸本 修一	所属	非常勤講師
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>本講義では2年次の薬理学で学んだ知識をもとに、臨床での薬物治療における留意事項について学ぶ。本講義の到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種疾患で用いられる代表的な医薬品の薬理学的特性、薬物動態学的特性を理解する。 2. 有効性と安全性を考慮した代表的薬剤の使用上の注意事項を把握できるようになる。 		
講義内容・授業計画	<p>講義内容 薬物治療上での効果と投与量の関係、体内動態、小児、高齢者などでの留意事項を講義し、次に疾患別に治療に用いられる代表的医薬品の臨床薬理学的特徴を講義する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 くすりの効果と投与量・剤型 (福島 : プリント配布) 2回目 くすりの体内挙動 (福島 : プリント配布) 3回目 添付文書のみかた、小児・高齢者とくすり (福島 : プリント配布) 4回目 妊婦・授乳婦とくすり、薬物治療モニタリング(TDM) (福島 : プリント配布) 5回目 循環器系治療薬 (1) (岩川 : テキスト) 6回目 循環器系治療薬 (2) (岩川 : テキスト) 7回目 消化器系治療薬 (1) (岩川 : テキスト) 8回目 消化器系治療薬 (2) (岩川 : テキスト) 9回目 呼吸器系治療薬 (1) (岩川 : テキスト) 10回目 呼吸器系治療薬 (2) (岩川 : テキスト) 11回目 内分泌・代謝系治療薬 (岸本 : テキスト) 12回目 腎臓病治療薬、抗炎症・抗アレルギー薬 (岸本 : テキスト) 13回目 ホルモン剤、骨・カルシウム代謝薬 (岸本 : テキスト) 14回目 感染症治療薬、神経・精神系治療薬 (1) (岸本 : テキスト) 15回目 神経・精神系治療薬 (2) がん治療薬 (1) (岸本 : テキスト) 16回目 がん治療薬 (2)、その他の治療薬 (岸本 : テキスト) 		
テキスト	「処方ができる医療薬理学2018-2019」(中原保裕) 学研		
参考文献	「疾患からみた臨床薬理学改訂第2版」(大橋京一・藤村昭夫編) じほう社		
成績評価の基準・方法	出席状況 30%、定期試験 70%を基準として、受講態度 (積極的な質問等) を含めて総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	講義では、テキストとプリントを使用します。 履修にあたっては、薬理学を修得していることが望ましい。		
実践的教育	該当しない		
備考			